

# 子規顕彰 全国俳句・短歌大会

入賞作品介绍

※□は複数の選者に選ばれた作品  
(掲載作品以外も含む)

正岡子規の業績を受け継ぎ、俳句・短歌の普及を図る「第53回子規顕彰全国俳句大会」が9月23日に、「第36回子規顕彰全国短歌大会」が10月28日に子規記念博物館で開催されました。全国俳句大会の募集句9,270句、当日句262句のうち、特選49句を、全国短歌大会は1,331首のうち上位賞、後援賞および特選15首を紹介します。(敬称略)

## 第53回 全国俳句大会

### 募集句特選二十五句

稲畑 汀子 選

本当はやりたき金魚すくひかな  
米井 孝子(富山県)

牡丹の咲くと聞きしに散ると聞く  
渡辺 孝子(西予市)

雨乞をして土砂降りにならうとは  
浜西 修(三重県)

毛虫焼く逃れし毛虫踏みながら  
塚本 治彦(神奈川県)

動くより止まりし時の汗滂沱  
池田 純子(岡山市)

井上 康明 選

六月の水を愉しむ海驢かな  
片岡 橙更(兵庫県)

山匂ひ海の匂ひて栗の花  
湯浅 芙美(徳島県)

子燕の空となりけり子規のくに  
小坂 艶子(岡山市)

### 上位賞

文部科学大臣賞

瀬戸内の島の夕ぐれ白線を引いて一人の部活始まる  
今井 洋子(広島県)

愛媛県知事賞

AIがいずれは人類亡ぼすと予言して逝くホーキング博士  
金子 公宥(大阪府)

松山市長賞

こつとんのワンピースのなか風満ちて誰かがわたしに会いに来ている  
平山 繁美(今治市)

松山市教育長賞

今の世の生きづらさ象徴するごとく全国に子ども食堂増えゆく  
角田 三苗(神奈川県)

### 後援賞

現代歌人協会子規記念賞

鳩の湖の青を見たしと眩くに共に行かましと病める夫言ふ  
川勝 容子(宮城県)

日本歌人クラブ賞

ふるさとにリニアが通る近未来夢がふくらむ明日がふくらむ  
長沼 昌司(長野県)

短歌研究社賞

霜月の尾花の谷にその尾花刈る男あて光乱るる  
村上 文子(松山市)

「短歌」編集部賞

古書店の狭き通路で子規さがす巧みになりたりこの蟹歩き  
土居 健一(高知県)

### 現代短歌社賞

樹木葬のカタログ夫とながめあふ外国旅行のやうに笑ひて  
森 ひなこ(広島県)

特選十五首

ふるさとにリニアが通る近未来夢がふくらむ明日がふくらむ  
長沼 昌司(長野県)

秋葉 四郎 選

AIがいずれは人類亡ぼすと予言して逝くホーキング博士  
金子 公宥(大阪府)

戦友が父の最期を知らせたる手紙が母の遺品に残る  
金子 公宥(大阪府)

臥す子規の眼残りし庭若葉  
岸川 佐江(兵庫県)

自転車は息子のおふる雲の峰  
信安 淳子(岡山市)

ひとりとして胸中に棲む螢の火  
福内 かすみ(西予市)

ひとりとして胸中に棲む螢の火  
福内 かすみ(西予市)

子規偲ぶ上野の花吹雪  
佐野 滋(東京都)

谷底のまた谷底の遅桜  
根本 國男(東京都)

全身で生きるよこび蚪泳ぐ  
平野 素美(松山市)

先づ仰ぎ見る子規庵の糸瓜棚  
森田 千重子(松前町)

立ち上がる噴水にあるうらおもて  
忽那 早苗(松山市)

村上 鞆彦 選

狛犬の足首太き立夏かな  
室 達朗(京都府)

### 永田 和宏 選

樹木葬のカタログ夫とながめあふ外国旅行のやうに笑ひて  
森 ひなこ(広島県)

霜月の尾花の谷にその尾花刈る男あて光乱るる  
村上 文子(松山市)

梅雨寒の夕ぐれどきの駅裏を空缶積み上げ自転車が行く  
阿部 綾子(兵庫県)

坂井 修一 選

鳩の湖の青を見たしと眩くに共に行かましと病める夫言ふ  
川勝 容子(宮城県)

炊きたてのこぼんに焼きたての秋刀魚  
近藤 節子(四国中央市)

空振りとなりし台風備へ解く  
稲井 夏灯(西条市)

高岡 周子 選

触れてみて呑んではじめて秋の水  
八木 大和(今治市)

詩ごころの動き出すより虫しぐれ  
原 道子(香川県)

水輪とは水のおどろき山澄めり  
平松 良子(岡山市)

江崎 紀和子 選

天辺の初鵬胸を反らしけり  
越智 啓子(東温市)

### 中川 佐和子 選

AIがいずれは人類亡ぼすと予言して逝くホーキング博士  
金子 公宥(大阪府)

古書店の狭き通路で子規さがす巧みになりたりこの蟹歩き  
土居 健一(高知県)

今この世の生きづらさ象徴するごとく全国に子ども食堂増えゆく  
角田 三苗(神奈川県)

瀬戸内の島の夕ぐれ白線を引いて一人の部活始まる  
今井 洋子(広島県)

こつとんのワンピースのなか風満ちて誰かがわたしに会いに来ている  
平山 繁美(今治市)

日傘さす男がふえるこの街で今日わたしをたためずにいる  
檜垣 実生(大分県)

母の忌の軋みて開く月の窓  
林 理恵(松山市)

思ひきり曲る糸瓜の空無限  
板倉 裕子(松山市)

蜥蜴の背光るドクター・ヘリの音  
園田 志保(伊予市)

橋といふ橋に名のある稲穂かな  
稲積 和子(松山市)

長き夜の化石をしまふための箱  
渡部 桜桃(松前町)

送るとは残さるること亭殺焚く  
菊野 眺子(松山市)

思ひきり曲る糸瓜の空無限  
板倉 裕子(松山市)

秋刀魚焼く真一文字をそのままに  
松本 麗子(松山市)

木下 節子 選

着陸す残暑の大地ひき寄せて  
石丸 千恵子(今治市)

整然と式典の椅子朝曇  
池川 紀子(東温市)

水鉄砲つむじ二つの男の子  
神野 信美(新居浜市)

### 福谷 俊子 選

床下のへどろ掻き出し呉るる背に辞儀繰り返すことば足らねば  
宮本 輝(山口県)

片上 雅仁 選

瀬戸内の島の夕ぐれ白線を引いて一人の部活始まる  
今井 洋子(広島県)

こつとんのワンピースのなか風満ちて誰かがわたしに会いに来ている  
平山 繁美(今治市)

日傘さす男がふえるこの街で今日わたしをたためずにいる  
檜垣 実生(大分県)

母の忌の軋みて開く月の窓  
林 理恵(松山市)

思ひきり曲る糸瓜の空無限  
板倉 裕子(松山市)

蜥蜴の背光るドクター・ヘリの音  
園田 志保(伊予市)

橋といふ橋に名のある稲穂かな  
稲積 和子(松山市)

長き夜の化石をしまふための箱  
渡部 桜桃(松前町)

送るとは残さるること亭殺焚く  
菊野 眺子(松山市)

思ひきり曲る糸瓜の空無限  
板倉 裕子(松山市)

秋刀魚焼く真一文字をそのままに  
松本 麗子(松山市)

線香の帯のもしもいる瀬祭忌  
赤穂 和子(松山市)

彼岸花埋れし墓の上に咲く  
武智 千代(松山市)

長岡 静子 選

月静か森となりゆく社宅跡  
上村 扶佐子(新居浜市)

すれ違う人はや遠し曼珠沙華  
梅木 由紀美(松山市)

庭の景巻き上げてる秋簾  
渡部 美恵子(松山市)